

(別紙様式2)

## 学生等評価の改善状況報告書

平成26年 3月31日

評価会議議長 殿

理学研究科長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成24年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成25年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
時間割について90%以上の学生が満足しているが、改善を希望している9.4%の内容を解析して緊急な必要性がある場合には対応を検討する。 実施時期(予定を含む): 解析後対応を検討、必要があれば27年度より実施
改善状況
改善を希望している9.4%の内容が具体的に何が不満に感じているか、データをみても緊急な必要性が感じられないため、時間割については現在のところ検討はしない。ただし、大学改革のなかで理学部の入試改革を計画していることから時間割について変更を行うことを検討している。
達成年度(予定を含む)
平成28年度

改善事項
学部生の英語教育
改善計画
各学科で必要とする科学英語について、授業の中で積極的に取り入れている。平成25年度より大学教育センターでのカリキュラムが実施されているため、結果が出ることを見守りたい。 実施時期(予定を含む): 部局では実施済み

改善状況
大学教育センターのカリキュラムの実施の効果があつたかどうか分析の報告を期待する。
達成年度（予定を含む）
部局では実施済み

改善事項
学部生の初修外国語
改善計画
平成25年度より大学教育センターでのカリキュラムが実施されているため、結果が出ることを見守りたい。 実施時期（予定を含む）：平成25年度実施済み
改善状況
大学教育センターのカリキュラムの実施の効果があつたかどうか分析の報告を期待する。
達成年度（予定を含む）
25年度

改善事項
学部生の国際的視野（異分野理解・グローバルな問題の理解）
改善計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流センター提供の派遣プログラムへ積極的に参加できるよう学生に勧める。</li> <li>・理学研究科では世界最先端の研究環境をを肌で感じることができるよう大学院生をMITとハーバード大学へ5日程度の日程で派遣している。語学留学だけではないこのような取組みが学部生にも適応できるよう大学全体のサポートがあることを期待する。</li> </ul> 実施時期（予定を含む）：実施済み
改善状況
国際交流センター提供の派遣プログラムへ積極的に参加できるよう勧めている。 理学研究科は大学院生を研究環境視察のため、アメリカへ派遣している。語学留学だけではないこのような取組みが学部生に適応できるよう大学全体のサポートがあることを期待する。
達成年度（予定を含む）
学部では実施済み

改善事項
学部生のリーダーシップ
改善計画
<p>実験・実習、研究室のゼミナール活動などにおいて、学生に自ら進んで考える機会を与え自発性を促す教育を行っている。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施済み</p>
改善状況
<p>実験・実習、研究室のゼミナール活動などにおいて、学生に自ら進んで考える機会を与え、自発性を促す教育を行っている。</p>
達成年度（予定を含む）
学部では実施済み

改善事項
大学院生の英語教育
改善計画
<p>大学院生として必要な科学英語について、授業及び研究室のゼミナールの中で積極的に英文資料の活用・英語によるプレゼンテーションを取り入れている。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施済み</p>
改善状況
<p>大学院生として必要な科学英語について、授業及び研究室のゼミナールの中で積極的英文資料の活用・英語によるプレゼンテーションを取り入れている。</p>
達成年度（予定を含む）
研究科では実施済み

改善事項
大学院生の専門的職業人に必要な高い能力
改善計画
<p>理学研究科の学問の性質上職業教育等を行っていないが、学生自らが考え、課題を提供し、考える機会を与え自発性を促す等の教育を行っている。</p> <p>実施時期（予定を含む）：実施済み</p>
改善状況

理学研究科の学問の性質上職業教育棟は行っていないが、学生自らが考え、課題を提供し、考える機会を与え自発性を促す等の教育を行っている。
達成年度（予定を含む）
研究科では実施済み

改善事項
教職の学級・学校のマネジメント能力
改善計画
全学の教職の講義でマネジメント能力の向上を図る内容の導入が望ましい。
実施時期（予定を含む）：平成25年度から実施。
改善状況
全学の教職の講義でマネジメント能力の向上を図る内容の講義について実施の効果があつたかどうか報告を待ちたい。
達成年度（予定を含む）
平成25年度

改善事項
進路支援
改善計画
学部としては平成24年度より就職説明会を独自で行っており、今後の結果を見極めているところであるが、就職支援組織が学内にできており、その活動に期待する。また、インターンシップへの積極的参加を学生に促す。*前年度までの単位取得状況を保護者へ送付する際に、前年度の進路状況を同封する。
実施時期（予定を含む）：*26年度前期の送付分より同封開始
改善状況
学内の就職支援組織の活動報告に期待する。前年度の進路状況を26年度より保護者へ通知する。
達成年度（予定を含む）
平成26年度

改善事項
教職員との相談体制
改善計画
<p>入学式のあとに行っている保護者出席の集まり等で、学生支援センターがあることを説明し、支援を受けることができることを周知する。各教員はオフィスアワーを設けており、学生への相談体制は整っている。*少人数の学部学生を担当する新入生セミナーを全学科で行っており、きめ細かく相談に対応できる体制がある。この体制について副指導教員制という制度として確立する。</p> <p>実施時期（予定を含む）：*平成26年度より全学科で制度確立予定</p>
改善状況
副指導教員制を26年度から始める。
達成年度（予定を含む）
26年度